

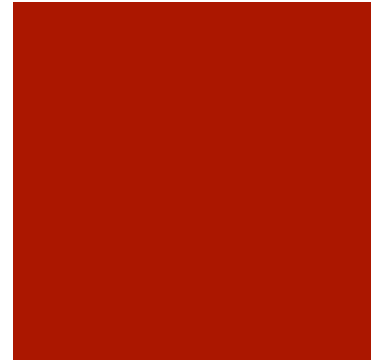


C.T.T.とは何か？

「C.T.T.とはなにか？」の前に。

- C.T.T.とは、舞台芸術を志す実演家や、彼らを社会とつなげる制作者や企画者、プロデューサー、批評家、そして「観客」を総合的に育成しようという「志の高い企画」です。とはいえ、内容はとてもシンプルなために、その意味や価値がわかりづらいものです。

例えばまったく初めて舞台を踏む人から、一流のプロまで様々な人を対等に受け入れるため、常にいい作品を期待する観客からは「ひどい作品を上演するくらいならしないほうがまし」などのご批判を受けたりもします。



「C.T.T.とはなにか？」の前に。

- とはいえ、シンプルな方法は、シンプル故の可能性を秘めています。

例えば、利用したい人が力点をおきたい部分で色々な活用できます。俳優のトレーニング、批評の強化、アウトリーチなどなどです。

そして最大のメリットは資金がかからない点です。そして、その仕組みを共有しやすい。（海外でも可能！）

・・・このようなことですが、一段とわからなくなっただけかもしれません。

つまり、それを活用する人が、この価値を決めてゆくのです。

「C.T.T.とはなにか？」の前に。

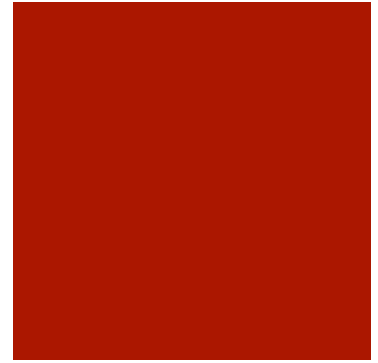
- 結局大事なことは、このちっぽけな事業を続ける「情熱」であり、舞台芸術を活性化したいという純粋な「思い」です。制作的な経験や実績は必要ないのです。そして、そのために必要な物理的な条件は、上演を行なう為の小さなスペースです。

この仕組みがつなげるのは、そうした「人の情熱」です。実際に事務局を運営する人材、参加するアーティストの実績やスキルにはそれぞれ大きな差があります。しかし、この「情熱」こそが「育成」や「発信力」の原動力であり、多くの人を巻き込む力だと考えています。一過性のイベントでは、情熱のつながりも一過性になりがちです。それではスキルは養われません。価値あるつながりとは、その情熱の連鎖が継続することだと思います。継続して初めて「育成」が叶うのです。

(C.T.T.京都事務局代表 杉山準)

C.T.T.とは

“Contemporary Theater Training”
の略で「現代演劇の訓練」の意味です。



演劇公演には資金や、集客や調整など創作以外に割かれる多くの時間、
エネルギーが必要



そうした手間を最小限に抑えることで、頻度の高い上演機会や作品の
プレゼンテーションの機会を作れないか。



舞台効果を最小限に抑え、純粹に作品性だけを検証できる場を作るこ
とで、作品そのものの力ものばせるのでは。

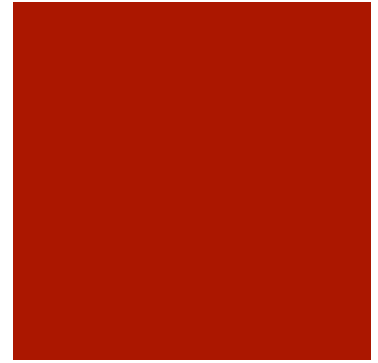


「試演会」という位置づけの会を運営し、参加者を募る活動を開始。

→C.T.T.の始まり。

目的

- 作品の試演を行い、上演後その場で作品を検証することで、「作品」と「観客」がより豊かな関係を結ぶお手伝いをする

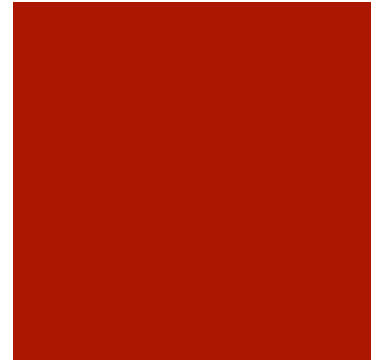


この活動は1995年に京都で始まり、およそ年6回程度のペースで開催、現在（2009年6月）までに83回の上演会を実施してきました。2007年からは名古屋、広島、大阪、岡山にも事務局が立ち上がり各地で上演会が始まりました。そして、その開催地は増えつつあります。



C.T.T.が地域にもたらす効果

- 作り手の育成
- （事務局を運営することで）プロデューサーとして地域の文化振興を担う人材の育成
- 舞台芸術を介在とした、国内外の人材交流の促進
- 地域からの文化発信力の強化
- 才能の流出の抑制、または才能を呼び込む力の強化
- 作り手を育む場所（育成型の劇場）の開拓とその活性化への貢献



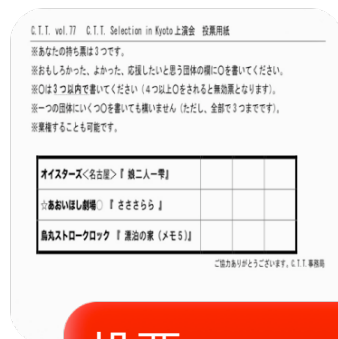
上演会はこのように行われます。



上演
2～3 団体が
続けて上演



合評会
• 終演後各団体の
代表者が壇上に
上り事務局のし
会による合評会
を実施



投票
• 観客による投票

出演方法と条件 その1

- **参加費**：2500円/1人（出演者、演出家等主たる参加者一人当たり）

注：セレクション上演会では参加費不要。

- **上演条件**：上演時間30分以内。／C.T.T.事務局は基本舞台と地明りを用意（オペレーターも）、それ以上の効果が必要な場合は参加団体に用意。

- **会場**：各地の小スペース

- **ステージ数**：2ステージ（各回終了後 合評会実施）

- **チケット・チラシ**：必要に応じてチケット・チラシを参加者団体に配布。（チケット販売ノルマは設けない。）売れ残ったチケットと売上金は当日会場にて精算。各団体5名まで招待あり。

注：招待者は投票権なし。ただし投票希望の招待者は参加2団体の場合100円、3団体は150円を支払い投票権を得ることが可能。注2：CITセレクション上演会など通常上演会でない場合は、チケット及び投票料の値段が上がることがあります。



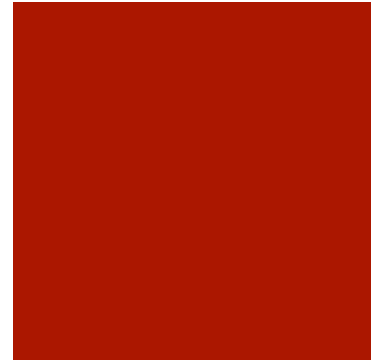
出演方法と条件 その2

- チケット料金（『**上演協力金**』と呼んでいます）

参加団体が2団体の場合**900円**／会場に400円、C.T.T.に400円、参加団体に100円と分配

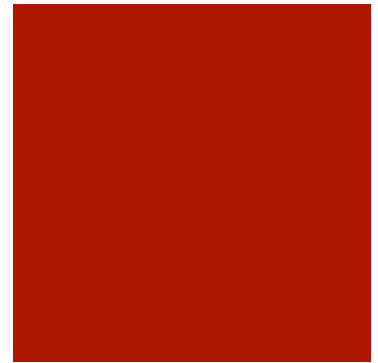
参加団体が3団体の場合**950円**／会場に400円、C.T.T.に400円、参加団体に150円と分配

注：上記は通常上演会の料金。セレクション上演会では料金が変わります。



出演団体への ペイバックの方法

- 観客には団体数の投票権があり、上演後投票します。つまり参加団体が2団体の場合、観客は2票を投票する権利を持っていて、各団体に1票ずつ入れてもいいし、2票をいずれかの団体に入れても可。棄権でもいい（棄権の場合は返金されません）。
- 獲得票数×50円が参加団体に還元。



上演日当日の流れ（モデル）



- 初日

9 : 30～15 : 30場当たり及びリハーサル（12 : 00～13 : 00休憩）

15 : 30～17 : 30ゲネプロ。

17 : 30～開場準備、18 : 00開場、18 : 30開演、

20 : 30終演、合評会21 : 10終了。

- 2日目

9 : 30～12 : 00リハーサル、

13 : 00～開場準備、13 : 30開場、14 : 00開演。

合評会終了16 : 40。引き続きバラシ。

撤収完了20 : 30

舞台について

(アトリエ劇研<京都>の場合)

- 基本舞台：奥行き3間(5.4m)×間口3間(5.4m)、床面グレーパンチ。舞台高さ±0。ではけ口上下に一つずつ。袖幕黒。舞台奥通り抜けあり。客席雛壇棧敷。
- 照明・音響：（色を入れない）地明かり。音響設備無し。

注：それ以上のものを望む場合は各団体負担。照明効果は事務局がしつらえた物以外は不可。音響効果を使う場合はオペレーターを含め各団体負担。タイムテーブル内での仕込みができることが条件。必要以上のしつらえは不可。

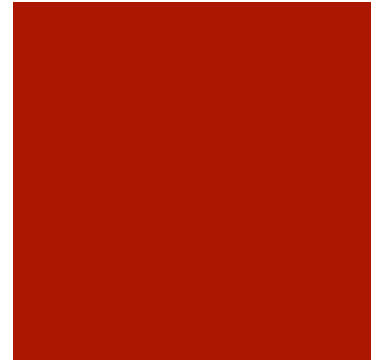


上演会実施までの流れ



セレクション上演会とは

- 参加団体の意欲を高めたり、各地と交流する方法として『セレクション上演会』を開催しています。
- 観客投票に基づいて参加団体が選抜される仕組みで、選ばれた団体は参加費がかからないなど、通常会よりいい条件で、上演機会を得られます。
- セレクション上演会は地元2～3団体、他の地方1～2団体を招いて実施されます。
- 舞台設定など上演形態は通常会と変わりません。



セレクション上演会の仕組み

各地の上演会4回の中で、得票数1位と2位の団体を選抜

他都市のセレクションを勝ち抜いた（もしくは事務局が推薦する）1～2団体を加えて『セレクション上演会』を実施

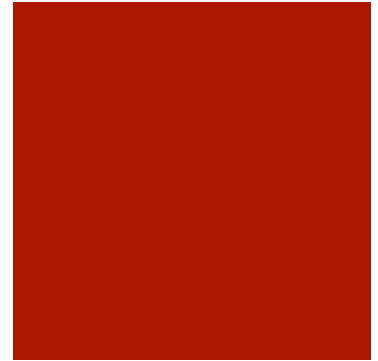
ここで得票数1位となった団体は、他都市のセレクション上演会に推薦される。

上演会はこうした会場で行なわれていきます。

- この上演会は非常に低コストで運営している為、各地の劇場さんの協力無しには継続することができません。廉価で会場を提供していただいているからこそ、実施できています。

各地の上演会場となっている場所は次の通りです。

- 京都：アトリエ劇研
- 名古屋：七ツ寺共同スタジオ
- 広島：山小屋シアター
- 大阪：ウイングフィールド
- 岡山：本行寺



どんな人が申し込みしているの？

- 場数を踏んで上手になりたい役者さん
- 本公演前に試作品をお客さんの前で上演することで、できを確認したい劇団
- あたらしい手法に挑戦したい演出家やグループ
- 劇団やダンスユニットを立ち上げるためのプレミア公演をしたい個人
- 作品の完成度をあげるために、お客さんに見てもらって批評を受けたい人。
- 自分の作品をいろいろな人に見てもらい、支持者を増やしたいかた。

キャリア30年以上の方から、ほとんど舞台経験がない方まで多様な方が参加しています。ストレートプレイもあれば、現代ダンスも、パントマイムも前衛表現もあり、過去には外国のプロの俳優さんの参加やプロの能楽師による能楽の参加もありました。つまり舞台表現であればなんでもありです。



C.T.T.の特徴と効果

- 制作資金集めや舞台の確保、設営などの負担がかからない。（一人2500円の参加費で舞台から、照明、チケット、チラシまで事務局が整えます。）→**負担の軽減効果**
- お客さんやこの会を運営する事務局員と直接作品について語る場もてる→**作品の検証効果**
- 簡単に申し込みができ、すぐ上演できる、なおかつ頻繁に開催される。→**必要な時に利用できる**
- 人的コネクションやマネージメント力（制作力）が無くても、作品そのものによって評価を得られる機会がある。→**公平なチャンスを生み出す**



C.T.T.の特徴と効果

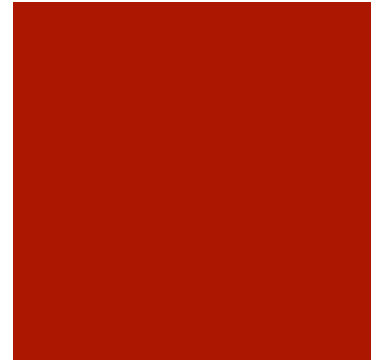
- キャリアなどに関係なく誰でも参加できる「開かれた」場である→**チャンスの拡大効果**
- 特定の作品性や手法をひいきするものではなく、もちろん政治活動や宗教の普及、商売のために行うものではない→**表現の自由や偏りを無くす効果**
- 現在の技量よりも、「作品や演劇に対する志し」や、「こうしていきたいという意識」を評価する→**育成効果**
- この場に出合った、優れた作品、俳優、劇作家、演出家を事務局が支援できる →**次の可能性へとつながる可能性が高いプレゼンテーションを実現する効果**



C.T.T.のポリシー その1

『身体性の重視』

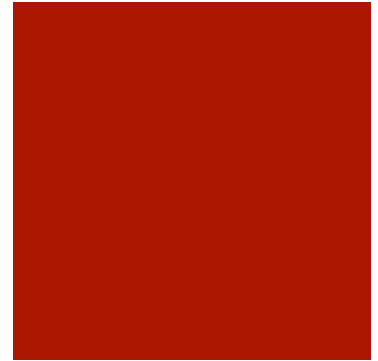
- 舞台表現の本質である「演技（身体を使った表現）」を大切にしています。もちろん、演出、劇作を試す場としても使っていただけますが、演出効果として音響や照明効果、美術を使った空間演出などに関しては、制限があります。（そうしたことを主に試したい場合には向かないということになります。）あくまでも演者が表現すべきことを中心にすえ、その部分を見つめる場なのです。



C.T.T.のポリシー その2

『未完成の容認』

- この上演会は、トレーニングの場であり、ワークイン
プログレスの発表の場です。つまり未完成が許される
場です。
- ただし、未完成と「いい加減」は違います。しっかり
した意図や気持ち、意欲を持った作品と、テキトウに
作った作品は本来は並列されるべきではありませんが、
この場では許されます。事務局では合評会等の場で
しっかりとその差に関して指摘をし、自覚のない参加
者に対しては自覚を促そうとしています。



C.T.T.のポリシー その3

『オリジナリティーの重視』

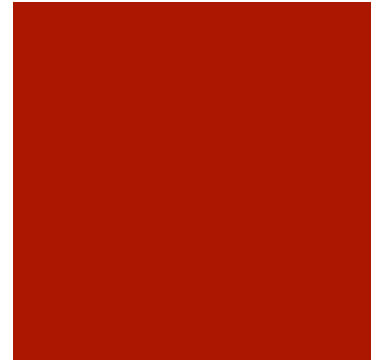
- C.T.T.は単なる人気取りや、コピーを推奨していません。人気劇団の参加は上演会を盛り上げる上でたいへん好ましいことです。しかし、安易なショーケースに流れることには注意を払っています。また、どこかの劇団のそっくりコピーである作品や、創作への意識が低い作品に対しては、合評会において、そうしたことへの自覚を促す方向で対応しています。



C.T.T.のポリシー その4

『頻繁に開催される』

- 試演会が機能する環境は、作り手が行いたい時に実施できる環境です。まれにしか開催されないのでは、そうした要望に応えられません。ですので、事務局はできるだけ頻繁に開催できるよう、努力しています。



C.T.T.のポリシー その5

『連続参加や継続参加を妨げない』

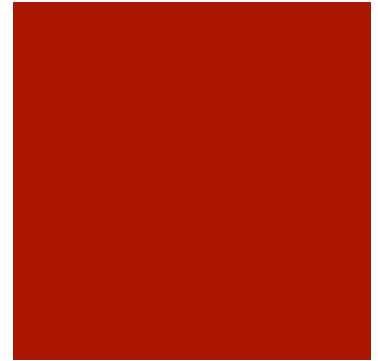
- 過去には1年に5回出演した団体もいるように、意欲的な参加をむしろ歓迎します。

注：こうする事でセレクションに選ばれる確率は上がりますが、現在は「それでも良し」という事にしています。



ちなみに・・・

- なにしろ、未完成品でもいいという上演会ですから、そうとはしらずに来られたお客様からは、たくさんのおしかりを受けました。「客は時間を使って来ているのだから、そうしたことに對する意識がないならやめた方がいい」などとアンケートに書かれた事もあります。上演中にまさに席を蹴って退場された方もいらっしゃいましたし、上演中に「やめろ！」と叫んだ人もいました。
- 終演後かならず行なう合評会でも、（一生懸命作った作品が批判にさらされるのはとても辛いので）参加団体からは「もっとましな発言をしてほしい」とか「司会が悪い」・・・などなどこれまた数えきれないくらいのおしかりを受けて来ました。
- 全裸表現もあったし、放送禁止用語で構成された芝居もありました。社会に対してのタブーも受け入れて来ましたが、そうしたことに對しても（そうした表現は）受け入れるべきでないという意見も頂戴しました。

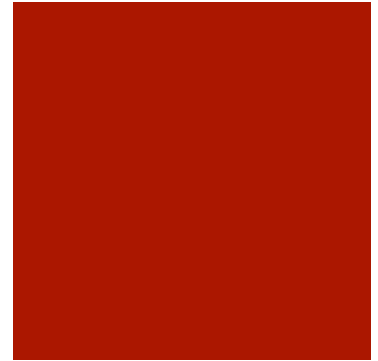


出演団体からも . . .

- 参加団体からも数々のクレームを頂きました。素舞台、地明のみ、音響効果無しというのが基本条件です。つまり「演技者の身体だけで見せてください」というのが大前提です。それは、舞台表現の本質がそこにあると考えているからですが、「よりよく見せたい」と考えるのが作り手の正直な気持ちです。明かりに色を入れたい、こんな効果を使いたい、そうした要望が来るのもよくわかりますが、作り手にとっては「どうして？」ということになるのです。

その度に話し合い、説明し、理解を得るようにして来ました。

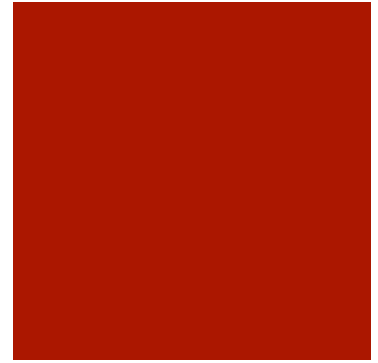
- これからもそうしたご意見に、恐れおののき、打ちのめされ、しかし受け止めるべき所は真摯に受け止め、改善に努めながら運営していくつもりです。



お客様の評価は信頼できる。

- Vol56 (2005年10月上演会)から観客による投票制度という方法を始めました。参加団体が3団体の時は3票、2団体の時は2票お客様に持ち票があり、応援したい団体良かった団体に投票していただく仕組みです。そして獲得票数に応じて料金の一部が参加団体に還元されます。これをやり始めてわかったことがあります。お客さんを一番呼んだ団体が必ずしも投票が1位ではない、ということです。いや、むしろ一番印象的で面白い作品を作った団体がきちんと票を獲得するということがわかってきたのです。

そういうことで現在、4回の上演会の中から良かった作品を選んで上演する「セレクション上演会」では、観客からの投票のみを選考基準にしています。



展望その1

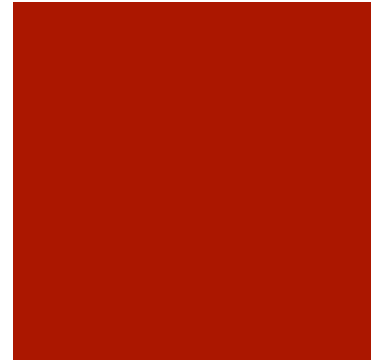
- 各地に事務局ができた事で、この仕組みを使ってた地域との交流を促進することができるようになりました。
- 今後はその中から、各地を本公演として巡演できるような優れた作品が生まれる可能性も見えてきました。



『**セレクション上演会**』がそれにあたります。

選ばれれば**旅費、制作負担が無く他都市公演ができます**

また、各地の事務局が連携してそうし作品や作り手を支援できる可能性が見えて来たことは、C.T.T.の新たな魅力となりつつあります。



展望その2

- こうした例がありました。

京都での公演を計画している東京の劇団、上演に先立って京都のC.T.T.に参加しました。低負担で作品のプレゼンテーションができる上に、その時に参加した他団体と交流が持て、その後の本公演につなげることができました。

海外から京都で滞在制作をしに来日したアーティストがC.T.T.に参加しました。試作品の上演ができるのみならず、海外の方にとっては集客することすら難しいものですが、低コストでそれが実現できる上に、地元の舞台関係者との交流が実現しました。

→他都市でのプレゼンテーションに使える！



展望その3

- 韓国で小劇場を運営するディレクターが、自分の劇場で計画している演劇祭の招聘団体を視察しに来た際に、たまたまC.T.T.を見て興味を持っていただけました。

非常にシンプルな形態なので、海外でも仕組みを共有することが可能です。

→近い将来、海外にも事務局が立ち上がり、同じ仕組みでの上演会が実現するかもしれません

→日本国内での都市館交流と同様に、定期的な国際交流機会がもてるかもしれません。



展望その4

C.T.T.ヴィジョンミーティング



- C.T.T.が複数の都市で実施されることになったことを契機に、この仕組みを使って何ができるか。そして、C.T.T.の仕組みや、本質的な目的の確認や検証する場として各地の事務局並びに、C.T.T.が行なわれていない都市の、文化関係者などを交えてミーティングを行なうことになりました。

2008年4月 岡山 2008年7月 京都

2009年1月 三重、名古屋

2009年6月 広島

- 会を重ねるごとに、認知の共有、可能性の共有が計られるようになりました。

→2009年6月に行なわれた広島でのミーティング議事録を資料として添付します。

最後に。

これは観客と作品（作り手）がいい関係をつく為の事業です。いい作品はきっと見知らぬ土地でも人を動かす力があるはずです。C.T.T.はそうした力（すなわち観客とどの程度いい関係が取れるか）を確認する場であり、それを育む場です。それが上手くいくことが、社会の中に舞台芸術が根を張っていくことではないでしょうか。

とは言いながら、実際の上演会では「えっ？」と思うような作品も存在します。しかし、「えっ？」が「おお！」に変わる事もあります。こうした場がだれかの支えになれば、それがこの会の意義なのです。

そしてこれからも、作り手も、事務局も、劇場も、観客も、ともに少しずつ負担をしながら、この会は運営されていくでしょう。ちなみに、料金を「上演協力金」としているのも、そういうことなのです。

